

在日被抑圧民族無条件防衛 / 入管体制粉砕 / 入管法再上程阻止！

9/19 東京入管撤去・解体闘争一法務省攻撃 闘争で今秋入管闘争の一歩橋頭堡を！

南部地区のすべての労働者・学生・市民の皆さん／
とりわけ今日の東京入管撤去・解体闘争を戦
闘的矛先と固くプログラムを以て闘った南部地区入管体制
崩壊評定実行委に絶賛する同志諸君！

今日のび、法務省に向けた攻撃的デモンストレー
ションを断固として賛成と、今秋入管・抑圧・反軍闘争
の全人民的政治闘争の発展を日本のアジア侵略・反
軍闘争に全面的に対抗して帝国主義的抑圧に徹底して攻撃し
ていく一歩橋頭堡を築き取るべきか？南部地区
反軍青年委員会は先般の最先頭でこの問いを置
くことを旨とする。

〈入管闘争をいかなる視点で、いかに我々は闘
うのか？〉

ア、プで我々の諸君はどのような問いに答えるのか、
どこで入管闘争をいかなるものとして闘うのか、我々
はこのことを出発点として闘ってきた。だが軍事的左
翼内閣にもいまだ誤った態度がどの方向も存在する。
一つは軍曹山藤君の如くに、結局として「抑圧民族を
被抑圧民族もろく」といついかなる方向も
なく右翼同調主義である。彼らは世界をロリアアート
と世界をロシヤロシヤの軍曹的加害のこの世界
認識をわびやりの入管にあてはめるが故に、「オシロ
リア階級共同を」といつい一般的無内容なことを言
い、(主)には「被抑圧民族無条件防衛(サンセレスノ)
など」といついかなることをいふものである。我々は彼ら
の主張が帝国主義的階級民族と階級の攻撃にまったく
無知であり、レーニンが批判した世界主義の一種に
すぎないことを暴露と、批判的には「経済主義は排外
主義に転化する」ことを警告をもって我々がやらなけ
ればならぬ。地方の極端、四ノロ・ML・只野虎の
りわゆるアジア軍曹的諸君であり、軍曹山藤君の如
くに真に答えるとして、我々は最もこの民族主義にお

よって闘っている部分である。彼らは我々の階級闘争の高
揚、在日被抑圧民族のみに全国に排外と、被抑圧民
族＝軍曹的、抑圧民族＝非軍曹的なるシューマを本意
論的に展開し、帝国主義国家をロシヤロリアートの国家
主義的任務を在日被抑圧民族の防衛一歩橋頭堡に切り
つめ、不斷に防主さん付運物にあてこぼれゆく。再度
確認しよう、軍曹の如くに我々が答えるべき防衛は
67年10・8・10・11月以降、67年以降の階級を全面的
に否定する一階級主義的に拒絶することではなくて、
国際主義を旗とすることこそ日本階級闘争を改善してこ
た我々が、67年以降で「インドシナ軍曹闘争に即応し
、日本の侵略・反軍闘争を解決せよ」といふ要求の
階級主義の現実を我々が、(どういかなる)「
抑圧民族・被抑圧民族の階級性」のなかにおける階級主
義とはなにかと(いついかなる)階級性も階級性のない
ものとしてあるが故に今秋入管闘争を日本の侵略・反軍
闘争の遂行の要として在日被抑圧民族の階級・差別・抑
圧、全人民の排外主義への攻撃、今秋予定とした
入管法再上程があること、どうして日本の攻撃の急
進的発展を絶えずとつて、我々は、全人民的政治闘争
として即応の階級性に対して陣方のよる階級性のある
ことで階級闘争が我々が我々に向つて闘うべき
水で階級主義的な任務なのだ？この問いの方向性と展
望こそ、「在日被抑圧民族防衛(入管体制粉砕)入管
法再上程阻止」をいかなる階級性も階級性のない
階級性のない、帝国主義的階級闘争のみにつきま
つこと
の中心にあることを確認しようではないか！

南部地区の労働者・学生諸君！南部地区反軍の旗の
下に結集し、今日の問いをこそ今秋入管闘争を我々
とともに闘おうではないか！

南部地区反戦 (即先 雑誌社 263:9104)